

# Hem21 NEWS

公益財団法人  
ひょうご震災記念21世紀研究機構  
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である  
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **65** 平成29年  
(2017) 9月

## CONTENTS

- 1 研究成果報告会  
地域コミュニティの防災  
力向上～インクルーシブ  
な地域防災へ～
- 2 地域支援活動の紹介
- 3 情報ひろば
- 4 HAT神戸掲示板
- 5 人と防災未来センター  
MIRAI
- 6～8

管理部

研究戦略センター

人と防災未来センター

こころのケアセンター

## 平成28年度ひょうご震災記念21世紀研究機構研究成果報告会 少子・高齢化社会におけるライフスタイルと 社会保障のあり方シンポジウムを開催

今回のシンポジウムでは、平成27～28年度に実施した研究プロジェクト「人口減少、少子・高齢化社会におけるライフスタイルと社会保障のあり方」の研究成果をもとにパネルディスカッションを実施しました。各パネリストから研究結果等について発表していただくとともに、相互に活発な議論が交わされ、参加者にとって大変有意義な会議となりました。



### 【シンポジウムの内容】

- ▶ 日 時：平成29年7月7日(金)13:30～16:30
- ▶ 場 所：ラッセホール 2Fローズサルーン
- ▶ 参加者：約150人
- ▶ 研究報告

人口減少、少子・高齢化社会におけるライフスタイルと社会保障のあり方～地域におけるクオリティ・オブ・ライフの実現に向けて～

報告者：阿部 茂行(同志社大学政策学部教授、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構政策コーディネーター)

- ▶ パネルディスカッション

テーマ：少子・高齢化社会におけるライフスタイルと社会保障のあり方

コーディネーター：阿部 茂行(同志社大学政策学部教授、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構政策コーディネーター)

パネリスト：小川 直宏(東京大学大学院経済学研究科特任教授)

小塩 隆士(一橋大学経済研究所所長)

橋木 俊詔(京都女子大学客員教授)

中村 順子(認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構評議員)

チャールズ・ユウジ・ホリオカ(公益財団法人アジア成長研究所副所長・教授)

# 地域コミュニティの防災力向上 ～インクルーシブな地域防災へ～



主任研究員 石塚 裕子

## はじめに

大規模な災害が多発し、公助の限界が声高に言われる中で自助、共助の重要性が再認識されて久しい。南海トラフ巨大地震等に備え、実効性のある防災力向上は喫緊の課題である。このような背景のもと、本機構では大阪大学大学院人間科学研究科の渥美公秀教授を代表に「地域コミュニティの防災力向上に関する研究～インクルーシブな地域防災へ」研究会を設置し、平成29年4月から2年間の予定で研究に取り組んでいる。

本研究会では、地域コミュニティ力の低下が危惧されるなか、地域の個性や地域住民、行き交う人々の多様性を考慮したインクルーシブな地域防災とはいかにあるべきか、学知、実践知の両面から検討し、社会実装に向けた政策提言を行うことを目指している。

## 研究会の概要

本研究会は、災害救援・復興支援に関する社会科学(グループ・ダイナミクス)、自然科学(都市計画、建築)の研究者に加え、NPO法人やNGOとして被災地や地域で活動している実践者、そして社会福祉協議会、行政機関職員という多彩な12人の委員で構成されている。

平成29年8月現在、研究会を2回開催し、研究テーマのキーワードである「地域コミュニティ」「インクルーシブ」「防災力」の概念および課題を抽出し、今後の研究の展開方向を定めた。以下に研究会での主な意見と今後の展開について紹介する。

なお、本研究会は始まって間がなく、十分な検証が行われていない段階であることを申し添えておく。

## 「地域コミュニティ」「インクルーシブ」「防災力」

3つのキーワードに共通する視座として、一つは『総合的、日常的であるべき』ということである。「防災力」だけが強い地域などなく、日常の多様な地域活動の積み重ねが地域コミュニティの力となり、「防災力」を高める。このため、福祉、観光、教育、社会基盤整備などさまざまなまちづくり活動が連動し、多様な活動経験が市民の内発的な判断力を育み、暮らしの自律(相互扶助)生活圏を創っていくような、総合的な取り組みが求められていると考える。

もう一つは『多様で動的(ネットワーク)であるべき』という視点である。少子高齢化、長寿社会を迎え、ダイバーシティが進む中で、人々のカテゴリーも、地域のまともも、コミュニティを構成する人材も固定したものでなく、動的であり、ネット

ワークとして捉えていく必要があるという認識である。

「地域コミュニティ」では、行政区分にとられない、他地域との連携や外部者の存在と活用を重要な視点として位置づけている。また「インクルーシブ」では、イクスルーシブ(排除)への気づきを促す接点の創出や、支援をする・されるの関係の流動性や同時性への気づきを大切なポイントとしている。

本研究会のテーマには『防災』という言葉を使っているが、平常時、発災時(初動・応急期)、復旧期、復興期と災害サイクルに応じた『減災』への総合的な取り組みを対象とし、持続可能な「暮らしの物語づくり」のような取り組みをイメージしている。「防災力」の向上を目指した日常の地域活動(防災といわない防災)を充実させる方略が求められているという認識に立つ。

## 今後の展開

本研究会では、次の4つのテーマでサブグループを設置し、実効性のある具現化した政策提言を行っていく予定である。

①「総合的・日常的」、「多様性・動的」であることを阻んでいるものの抽出

これまでの救援活動経験や既存の関連制度において、前述の視座を阻んでいるものを抽出し、課題を具象化する。

②地域活動の支援・広域展開方略の探索的事例集約

各地で取り組まれている先進事例の収集、相互の情報交換を通じて、地域活動の支援、広域展開の方略を探索する。

③過渡期、移行期を含むインクルーシブな地域防災の具現化に向けたモデル地区での検討

防災力の向上には、持続的、長期的な取り組みが必要であるという認識に立ちつつ、地域個性や人々の多様性に配慮したインクルーシブな地域防災を具現化する方略をモデル地区で試行する。

④学知、実践知(現場知)が社会実装への方針決定に反映できる仕組みの検討

本研究会の提言をはじめ、各地域の現場知を社会実装させる上で重要な行政の方針決定プロセスのあり方について、兵庫県の協力を仰ぎながら検討する。

本研究会は、セミオープンな研究会や交流会などの機会を持ち、より多くの多彩な考えを取り入れて研究を行い、提言していきたいと考えている。どうぞよろしくお願いいたします。

## ●地域支援活動の紹介●

兵庫県こころのケアセンターでは、県内外で発生した災害や事件・事故等に起因する「こころのケア」について、地域からの要請に基づき、体制整備についての助言をはじめ、こころのケアチームの派遣を行い、現地で被災者(被害者)と支援者への支援活動を行っています。

平成28年度に発生した熊本地震では、4月16日から5月27日まで「ひょうごDPAT(災害派遣精神医療チーム)」のメンバーとして現地に赴き、本部や避難所において支援活動を行うとともに現地スタッフへの研修等を行いました。被災地への支援は緊急的、集中的な支援だけではなく、啓発や教育、支援者への支援など幅広いため、現在も依頼に基づき現地でのコンサルテーションや研修講師などの支援を展開しています。

また、被災地域のニーズに応える専門性の高い精神科医療の提供と地域精神保健活動の支援を行う専門チームの人材育成およびスキルアップを目的として、兵庫県内46の登録医療機関を対象とした「ひょうごDPAT」研修を実施しています。

本年は、7月29日に南海トラフ地震を想定した内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練があり、被災地として兵庫県

が想定されたので、「ひょうごDPAT」として参加しました。訓練では県内13カ所の精神科病院によるEMIS(広域災害救急医療情報システム)の入力、県庁でのDPAT調整本部の立ち上げと運営、こころのケアセンターでの活動拠点本部の立ち上げと運営、県内2カ所の精神科病院の協力を得た模擬患者の搬送および受け入れの訓練を行いました。岡山精神科医療センターの参加も得て、DMATや兵庫県精神病院協会・兵庫県精神科診療所協会とも連携し、初めての大規模な実動訓練となりました。

その他、相談室では、日常の電話・面接によりトラウマ(こころの傷)・PTSD(心的外傷後ストレス障害)等に関する相談に応じています。ここ数年DVや虐待、性被害の相談件数が増加しており、研究部が中心となって、支援者に対するDV被害者のこころのケアやこどものトラウマ反応についてのコンサルテーションやトラウマ・フォーカスト認知行動療法(TF-CBT)の研修などにより継続的な支援事業を行っています。

今後も、これまでに積み上げた活動実績を基に、災害や事件・事故等の発生時の支援活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

### 主な活動実績

- 東日本大震災
- 平成21年台風9号災害(佐用町・宍粟市)
- 能登半島地震災害
- スマトラ島沖地震における津波災害(インドネシア)
- 新潟県中越地震災害
- ニュージーランド地震
- 中国四川大震災
- チリ大地震
- JR福知山線脱線事故
- 熊本地震

### 〈大規模地震時医療活動訓練〉



兵庫県こころのケアセンター

「こころのケア」シンポジウム参加者募集

「いじめの科学」をテーマに、兵庫県こころのケアセンターの研究報告と、講演を行います。

▶日時=11月16日(木)13時30分~16時30分

▶場所=兵庫県こころのケアセンター

▶プログラム

第1部 研究報告

山本 沙弥香(兵庫県こころのケアセンター主任研究員)

第2部 講演

講師:和久田 学(大阪大学大学院、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所特任講師)

▶定員=150人

▶参加費=無料

▶申し込み方法=所定の参加申込書(※)に必要な事項を記入の上、郵送、FAX、Eメールで下記申し込み・問い合わせ先へ。先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。

※下記ホームページからプリントアウトできます

●申し込み・問い合わせ先

兵庫県こころのケアセンター 研修情報課  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2  
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017  
Eメール kensyu@j-hits.org  
http://www.j-hits.org/

研究戦略センター

第7回自治体災害対策全国会議参加者募集

阪神・淡路大震災以降、世界各地でさまざまな大災害が多発する中、全国の自治体職員がその都度異なる形で襲来する災害に対して迅速・的確に対応できるよう、被災自治体の復旧・復興への取り組みを情報共有し、今後の災害への備えについて考える「自治体災害対策全国会議」を平成23年度から毎年開催しています。

本年度は、「被災者支援と災害復興・地域創生」をテーマに、新潟県中越地震をはじめ東日本大震災、熊本地震などの対応事例を踏まえ、今後の被災者支援の在り方や、創造的復興の実現方策について考えます。

▶日時=11月9日(木)13時30分~17時40分

11月10日(金)9時30分~12時30分

▶場所=長岡グランドホテル(新潟県長岡市)

▶プログラム

【1日目】

特別講演:「歴史から学ぶ地震の脅威」

寒川 旭((国研)産業技術総合研究所活断層・火山研究部門名誉リサーチャー)

基調講演:「被災地の教訓の継承~阪神・淡路から中越へ~」

室崎 益輝(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授)

パネルディスカッション第1部:「応急復旧期の被災者支援」

座長/田村 圭子(新潟大学危機管理本部危機管理室教授)

報告者/「東日本大震災を踏まえた地域の防災・減災対策」

鈴木 知基(仙台市危機管理室防災計画課長)

「熊本地震の行政対応」

井上 学(熊本政策局危機管理監)

「官民連携による被災者支援」

明城 徹也((特非)全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)事務局長)

【2日目】

特別報告:「大規模災害からの被災住民の生活再建を支援するための応援職員の派遣の在り方」

櫻田 順一(総務省大臣官房企画官)

パネルディスカッション第2部:「災害復興と地域創生」

座長/澤田 雅浩(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授)

報告者/「中山間地域における災害からの集落再生」

青木 勝(株山古志アルパカ村代表<元長岡市山古志支所長>)

「東日本大震災からの復興まちづくり」

角田 陽介((独法)都市再生機構都市再生部事業戦略室特定戦略課長<前大船渡市副市長>)

「西原村における復興への取り組み」

内田 安弘(西原村副村長)

総括討議

※プログラム内容は変更する場合があります

▶定員=200人(自治体職員に限らずどなたでも参加していただけます)

▶参加費=無料

▶申し込み方法=下記ホームページから「第7回自治体災害対策全国会議チラシ」をダウンロードし、FAXまたはEメールで下記申し込み・問い合わせ先へ。

●申し込み・問い合わせ

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター 交流推進課  
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

Eメール zenkoku@dri.ne.jp

http://www.hemri21.jp/dcp/index.html

平成29年度兵庫自治学会研究発表大会のご案内

兵庫自治学会では、平成29年度の研究発表大会を開催します。会員に限らずどなたでも参加できますので、ぜひご参加ください。

※参加申込書(チラシ)は、完成次第、http://hapsa.net/にアップロードします

▶日時=12月10日(日)

10時~17時30分

▶場所=兵庫県立大学・神戸商

科キャンパス(神戸市西区学園西町8-2-1)

※神戸市営地下鉄「学園都市」

駅下車徒歩約10分

▶大会テーマ「文化力豊かな魅力ある地域社会の創造に向けて」

人口減少、少子・高齢化が進む中で、自らの暮らす地域の魅力を高め、新たな時代にふさわしい、こころ豊かで生きがいのある地域社会づくりが求められています。

こうした問題意識の下、地域に根差した文化や生活などに焦点を当て、地域資源を生かした、これからの社会づくりの在り方や展開方策について考えます。

▶プログラム

総会(10時~10時25分)

全体会(10時30分~12時15分)

基調講演:平田オリザ(劇作家・演出家)

分科会(13時~16時)

第1分科会(産業・自治振興) / 第2分科会(福祉・防災) / 第3分科会(地域づくりI) / 第4分科会(地域づくりII)

交流会(16時30分~17時30分)

▶参加費=無料

兵庫自治学会とは、県政および県内市町行政の振興と地域の発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指している団体です。自らの視野を広げるため、一歩踏み出してチャレンジしてみませんか。

■会員になるには

年会費2,000円。次のいずれかに該当する方ならどなたでもご入会いただけます。

兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・個人(会員数 約550人)

●申し込み・問い合わせ

兵庫自治学会事務局

((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター内)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター 東館6階

TEL 078-262-5570 FAX 078-262-5593

Eメール gakujuitsu@dri.ne.jp

http://hapsa.net/ (←入会フォームはこちら)



## 兵庫県立美術館

### 特別展

### 「大エルミタージュ美術館展 オールドマスター 西洋絵画の巨匠たち」

ロシア帝政時代の首都、サンクトペテルブルクにあるエルミタージュ美術館は、絵画作品約1万7,000点を含むコレクション310万点を誇る世界有数の美術館です。本展は、この膨大なコレクションの中でも特に充実している16世紀ルネサンス、17・18世紀バロック、ロココの時代に活躍した「オールドマスター」の絵画85点を紹介します。西洋美術史に燦然と輝く巨匠たちの優品を堪能できる、またとない機会です。

■会期＝10月3日(火)～2018年1月14日(日)

■観覧料＝一般1,600円、大学生1,200円、70歳以上800円、高校生以下無料



ティツィアーノ・ヴェチェッリオ《羽飾りのある帽子をかぶった若い女性の肖像》1538年 ©The State Hermitage Museum, St Petersburg, 2017-18

### 県美プレミアムⅡ

### 小企画「美術の中のかたち―手で見る造形 青木千絵展 漆黒の身体」



青木千絵《BODY 10-1》2010年

本展は、目の見えない方の美術鑑賞の場となり、目の見える方にも鑑賞のあり方を考えていただく機会となることを目指しています。28回目を迎える今年は、漆を素材として身体を表現する青木千絵さんの作品を展示。身近な素材とかたちを、作品に触れて鑑賞できます。

### 特集「みなと物語 新収蔵品を交えて」

兵庫県立美術館の特徴として、神戸港に程近いウォーターフロントに位置することがあげられます。今年は神戸開港150周年でもあり、「みなと」にちなんだ展覧会を開催します。「みなと」には、船着き場や船路(ふなみち)、水の出入り口、人や物の集まる所、行き着く所といった意味があり、これらの語意を手がかりに、新しく収蔵された作品とともに多彩なコレクションをお楽しみください。



星襄一《王の樹》1976年

■会期＝10月15日(日)まで

■観覧料＝一般500円、大学生400円、70歳以上250円、高校生以下無料 ※障がいのある方とその介護の方1人は無料

◎休館日＝月曜

◎開館時間＝10時～18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)

※入場は閉館の30分前まで

TEL 078-262-0901(代) <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

## JICA関西

### ◆食べることから始める国際協力!

### JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理の10月はキューバ料理です!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間＝(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

■定休日＝年中無休(年末年始を除く。)



写真は9月のマダガスカル料理

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)市民参加協力課  
TEL 078-261-0384 FAX 078-261-0357

Eメール [jicaksic-event@jica.go.jp](mailto:jicaksic-event@jica.go.jp)

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!→ <http://www.jica.go.jp/kansai/>

## 日本赤十字社 兵庫県支部

### ALL HAT2017に参加します

知っていれば安心!!～心肺蘇生とAEDの使い方～

もし目の前で大切な人が倒れたら、救急車が来るまでの間に何ができますか?

急病や不慮の事故からご自分の身を守り、大切な人のいのちを救うための正しい基礎知識と技術を身につけてみませんか。

■日時＝10月28日(土)10時15分～12時

■場所＝人と防災未来センター

■内容＝心肺蘇生とAEDの使い方のミニ講習(1人15分程度)

三角巾を使った傷の手当(1回30分)

\* \* \*

日本赤十字社では、万一の病気やけが、災害などに備え、人命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識や技術を伝えるためのさまざまな講習を行っています。詳しくはホームページをご覧ください。

### 活動資金にご協力をお願いします

いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。

■ご協力方法(郵便局・ゆうちょ銀行の場合)

口座記号番号 01110-0-1136

口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料です

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921

赤十字 兵庫 検索



日本赤十字社 兵庫県支部  
Japanese Red Cross Society

あった、あった、ここや。  
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。

あかん、鎮まれ心臓  
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った  
人と人との

つながり。

それが、  
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」  
名刺を交換したらお付き合いの始まり。  
小さな紙片からどれだけ仕事が広がるか、  
さあ、ガンバルぞお～!

株式会社 神戸新聞総合印刷

【神戸新聞総合出版センター】

<http://www.kobepn-printing.co.jp/>

# 夏休み防災未来学校



## ペットボトル地震計をつくろう!

地震計は地面の揺れをどうやって記録するのか等地震計の仕組みの説明を聞いた上で、ペットボトルや乾電池を使ったペットボトル地震計を作りました。保護者とのペアで参加するプログラムなので、親子で協力し合う様子が印象的でした。地震観測を行っている京都大学阿武山観測所の協力を得て実施しました。



## サバイバル!手作りラジオに挑戦しよう!

ダンボールやクリップなど身の回りのものを使って、電池を使わないシンプルなラジオを手作りしました。完成したラジオから音声聞こえてくると、皆声を上げて喜ぶ姿が印象的でした。最初は聞こえなかった参加者も、プログラムスタッフの力を借りて、ちゃんと受信できるラジオを完成させていました。



## 紙だけで、いろいろ作ってみよう!

阪神・淡路大震災では、家の食器が全て割れてしまったり、避難所の体育館や教室で敷物がないために寒い思いをしたりした人たちがいました。そういったときに役立つ知識の一つとして、身近な「紙」という素材を使った紙食器や紙トレイ、足を守るスリッパの折り方などを学びました。



## じょうぶなストロー建物をつくろう!

建物の強い構造を学びながらストローを柱とした家の模型を作り、その強度を測るプログラムを開催しました。参加者たちは、筋交いや柱の位置などを考えながら、熱心に強い家づくりをしていました。紙とストローを使った簡単な工作であることから、小さな子どもから大人まで楽しく参加できるプログラムとなりました。



## ビー玉でダイヤモンドの結晶構造スケール模型をつくろう!

地球を形作る物質の成り立ちを学び、その一例として、ダイヤモンドの構造モデルをプラスチックケースとビー玉を使って完成させました。きれいに組み合わせることに苦労している参加者もいましたが、普段目で見ることのできない分子の構造を学ぶ機会になっていたようです。



## 六甲山の災害展2017

昭和42年六甲山系豪雨災害50年行事実行委員会との共催で実施しました。治山ダムや砂防堰堤が六甲山の緑や市街地を守っていることが理解できる立体模型を展示したり、3D立体映像装置により土石流の発生から流下までの状況を再現したりするなど、多くの方々が熱心に見入っていました。



# 2017レポート

人と防災未来センターでは、子どもから大人まで楽しみながら防災・減災について学ぶことができる「夏休み防災未来学校」を7月22日から8月31日まで開催しました。夏休みの宿題にも役立つワークショッププログラムも多数実施され、家族連れを中心に多くの方に参加いただきました。

## リアルHUG避難所はどんなところ？ ワークショップ

災害が発生したとき、避難所はどのような状態になるのか？今回は豪雨災害を想定して、自分たちが住む場所の避難所の確認や、家族間の連絡の取り方などを振り返りました。また、実際に避難所運営の方法を学ぶため、避難者、避難所の受付担当者、誘導者に分かれて役割を果たすなど実践的な訓練も行いました。



## 「ゆれるん」地震体験車がやってくる！

大地震の揺れを体験し、いざというときの備えを考えるため、実際に起きるかもしれない大きな揺れを体験してもらいました。小さな子どもを連れてお母さんからは、「子どもを守るためにどうすればいいか考えなければいけないことを実感しました」というご意見も頂きました。



## 体験型防災アトラクション ライフラインVol.2

防災版・脱出ゲーム「ライフラインVol.2」を実施しました。実際に地震が起きた際の課題をクリアしてゴールを目指す、楽しみながら実践的な知識が身に付くプログラムで、参加した仲間同士で力を合わせている姿が印象的でした。



## 3D!?六甲山の立体地図をつくろう！

神戸・阪神地域に住む人々には身近な山、六甲山。当センター所属の坪井塑太郎研究員から、その六甲山の形や特徴、過去に起きた災害などを学んだ上で、お弁当のプラスチック容器を使った六甲山の立体模型作りを行いました。同時期に開催されていた「六甲山の災害展」とも連携し、土砂災害や砂防などについてもじっくり学びました。



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

### 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

#### 開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)  
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)  
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

#### 入館料金

| 大人                     | 大学生        | 高校生／小・中学生 |
|------------------------|------------|-----------|
| 600円(450円)             | 450円(350円) | 無料        |
| [障がい者]                 |            |           |
| 大人                     | 大学生        | 高校生／小・中学生 |
| 300円(100円)             | 200円(50円)  | 無料        |
| [70歳以上の高齢者] 300円(200円) |            |           |

※( )は20人以上の団体料金  
※毎月17日(休館日の場合は翌18日)は入館無料

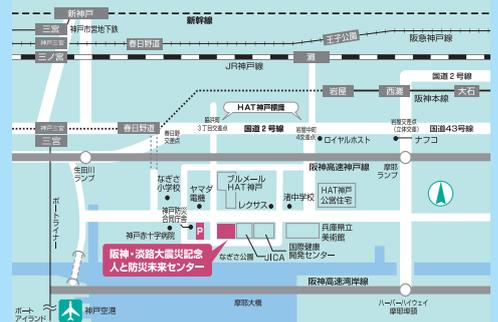
#### 休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日  
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休  
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

#### 交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
  - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
  - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅前から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
  - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
  - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



## 大学生のインターンシップを受け入れました

人と防災未来センターでは8月14日から25日までの間に各4日ずつ、神戸国際大学の学生2人をインターンシップとしてお迎えしました。以下は2人の感想です。

「資料室で資料の管理や紙芝居形式のクイズをさせていただきました!! 資料は温度や湿度を一定の数値で保たないとすぐ劣化してしまいます。なので、湿度が高い夏は除湿機が5台もフル稼働しています。5台使っても一晩たつと水でほぼ満タンになっているのには驚きました。子どもたちをメインに紙芝居形式のクイズを出題させていただきましたが、出題している僕自身学ぶことがとても多かったです。本当によくできたクイズだなと思いました。僕は阪神・淡路大震災の時にはまだ生まれていなかったのですが、この場所で地震の恐ろしさや災害時に必要なものを学びました」



相談カウンター



防災ゲーム

「あらかじめ資料室での仕事内容は調べてからインターンシップに参加したつもりですが、想像していた仕事内容とは全く異なりました。資料の保管と聞き、堅い仕事ばかりだと思っていましたが、夏休みのキャンペーンということで防災未来学校が開催されており、センター内でスタンプラリーをしている子どもたちを対象に問題形式の紙芝居をしたりしました。また、修学旅行などの下見に来ている小中学校の先生などへ資料を提供したり、NHKから取材を受けたりもしました。一番驚いたのが、22年前の阪神・淡路大震災の資料を寄贈して下さる方たちがまだたくさんいることでした。寄贈していただいた資料などを登録し、保管することも資料室の仕事で、その資料を取材したいというNHKと寄贈者へのコンタクトも資料室の仕事でした。22年前の資料を大切に保管するだけでも重要な仕事ですが、それを広めるという仕事はとても重要で、これからも続けていかなければならないので、資料室の存在の大切さを実感しました」

資料室としても、夏の忙しい時期で大変ありがたかったです。9月5日から15日の間にも各4日ずつ、神戸学院大学の学生2人をインターンシップとして迎えました。

## 「HAT減災サマー・フェス」を開催しました

人と防災未来センターでは、地元HAT神戸の住民の方々との地域交流の場として、また防災意識の向上を図るため、8月26日(土)に「HAT減災サマー・フェス」を開催しました。

2回目となる今回は、昨年以上に多くの方にご参加いただき、大変な賑わいとなりました。屋外ひろばを中心に行われた「減災縁日」では、小さな子どもから楽しめる「水遊びプール」や、高齢者に人気の「かんたん健やかチェック」、秋に実施される「ALL HAT防災訓練」を紹介するブースなどが新たに設けられ、年齢を問わず幅広い世代の方にお楽しみいただくことができたようです。



おやつ屋台



水遊びプール

なぎさふれあいのまちづくり協議会、脇の浜ふれあいのまちづくり協議会からも多数の方にボランティアとして参加いただきました。特に、渚中学校の防災ジュニアリーダーの皆さんは、各ブーススタッフとして活躍するほか、夕方6時30分から実施された「サマー・フェス セレモニー」の司会進行も務めました。

HAT神戸の住民の方をはじめ、多くの方々の交流の場となるイベントとなりました。



**Hem21 NEWS**  
vol.65

平成29年9月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構  
〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)  
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

● 管理部

TEL 078-262-5580  
FAX 078-262-5587

● 研究戦略センター

▶ 研究調査部  
TEL 078-262-5570  
FAX 078-262-5593

● 人と防災未来センター

TEL 078-262-5050  
FAX 078-262-5055

▶ 学術交流部

TEL 078-262-5713  
FAX 078-262-5122

● ころのケアセンター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2  
TEL 078-200-3010  
FAX 078-200-3017

ニュースターに関するご意見・  
ご感想を機構までお寄せください